



敬愛

校長 吉田 修

〒183-0027 府中市本町 4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

「令和6年度に向けて」

校長 吉田 修

今年度も残り2か月になりました。学校では、すでに昨年末から令和6年度に向けての学校経営方針を策定し、次年度に備えています。

令和3年度から新しい学習指導要領になり、3年目を終えようとしています。学習指導要領変更と共に学校での教育環境も変わり、それに合わせて、学校も変化していかなくてはなりません。そこで、来年度以降の学校経営について、この学校だよりを通してお伝えします。

1 部活動の外部移行 2025年度から実施

部活動の外部移行に伴い、令和6年度から本校では「部活動」という呼び名を改め、「クラブ活動」という呼び名で活動してまいります。呼び名を変えるだけでなく、活動の考え方も変えていく必要があります。顧問は「指導者」から「支援者」に役目を変えます。生徒が自主的・自発的な活動ができるように支援していきます。また、土曜日の練習、日曜日の大会等についても、無理なく参加できる形にしていきます。勝利至上主義の部活動から生涯学習教育のスポーツとしてのクラブ活動に変えていきます。休日の活動については外部から顧問指導員、技術指導員を募集し外部と協力しながら活動を続けていきます。

2 2学期中間考査の廃止

「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」といった観点からも学習活動を見直し、先生の話を生徒が聞くという受け身の授業だけでなく、グループで話し合うなどの対話型学習を通して、生徒が主体的に、より深く学べるようにする能動的学習を推進する必要があります。

評価では、①学びにむかう力や人間性

②実社会を生き、働くための知識や技能、

③未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力

の3つの力をバランス良く育み、子どもたちが将来、社会に出てからも役立つ学びを目指すようにしています。

社会の変化がさらに加速することが予想されるなか、未来の社会の担い手を育む教育のあり方を求める取り組みが、ますます重要になっていきます。その一つに、自律学習があります。「自分が何になりたいか、どうしたいか」を考えさせるため、「自分の学びは自分で進める責任がある」という自覚をもてるようにすることです。多様化する社会では、テストのための勉強ではなく、自分のやりたいことを実現するための学びが重要です。自らを律し、宿題やテストがなくても学び続ける姿勢を身に付けることが必要です。

2学期の中間考査をなくす代わりに、日常に行う小テストや、単元別テストなどの回数を増やしていくことも教科ごとに考え、工夫しながら、適正な評価ができるようにしていきます。

3 年間を通してノーチャイムで過ごす学校生活

生徒の自発性をさらに求めるための「ノーチャイム」の取り組みです。社会に出れば、時間を自ら気にしながら、自分のやるべき仕事をマネジメントしなくてはなりません。授業間のチャイムをなくすることで、授業時間の始まりを意識し、学習に取り組む姿勢を養います。1・2年生の校外学習や3年生の修学旅行、1年生の宿泊行事などでも、日頃から時間を気にしながら行動することで、こうした姿勢がさらに身に付いていくものと考えています。

4 2年進路面接指導の変更

夏休みの期間に、2年生の進路学習の一環として進路面接を行ってきました。進路面接では多くの地域の皆様にご協力を賜り、生徒の成長の様子を見ていただき、学校としてもありがたい限りです。このような機会は、地域と学校を結びつける良い機会だと考えています。しかし、2年生は2学期に職場体験学習を控えており、その準備等で面接に手をかけることが十分に行えない実態も出てきました。

そこで、地域の方々に応援していただきながら行っている進路面談を、3年生の2学期に変更して実施します。

5 令和7年度標準服の変更

男女平等社会、LGBTQ への対応、多様性の受容、校則の見直し等、学校現場が対応していかなければならない課題は数多くあります。本校は長い歴史がある反面、今まで変化しないで継続しているものも多く存在しています。標準服もそのうちの一つです。ジェンダーレス、多様性、LGBTQ など、今の時代に合った標準服を考える良い機会だと考えました。PTA、生徒代表、教員で構成する標準服変更委員会を中心に話し合いを重ね、令和7年度に向けて、標準服の変更を考えていきます。詳細については、今後学校日より、保護者会等でお伝えします。

6 衣替え、衣替えの移行期間をなくします

近年、気候変動により、気温の変化が時期により激しく変化しています。そこで、今年度までは衣替えや、衣替えのための移行期間を設けておりましたが、来年度からはそれらをなくし、個人の判断で、その時期に応じた服装を選択するようにしていきます。ご家庭の判断で、適切な標準服の着用をお願いします。

地域の方から…

先日、地域の方から学校にお電話をいただきました。内容は、本校の生徒に助けてもらい、本当にありがたかったので、感謝の気持ちを伝えたくった、というものでした。お電話をくださった方は年配のご夫婦で、府中郷土の森公園からバスで移動しようとしていたのですが、バス停の場所がわからず、またお一人は足の調子が良くないこともあり、大変困っていたところ、本校の生徒（赤いリボンの女子とのこと）がバス停まで案内してくれて、バスが来るまで一緒にいてくれた、とのことでした。バスを待つ間も様々なことに気遣ってくれながら、たくさんお話をしてくれたそうです。

お電話でその方は、何度も「本当に助かりました。ぜひ、その生徒に感謝の気持ちを伝えてください。」とおっしゃっていました。

能登半島地震や東日本大震災など、近年様々な災害が起きていますが、どの災害でも、災害直後の避難や救助、避難所での生活などの際の中学生の活躍が伝わってきます。中学生は地域社会において、重要な役割を担っているということです。幸い、本校近辺で大きな災害は起きていませんが、今回のように、普段の生活の中でも皆さんが地域の力になれる場面はたくさんあります。普段から周りの人たちのために自分に何ができるかを考え、できることから実際に行動していくことが、いざというに行動できる力になります。そのような場面に出くわした時、勇気を出して行動してみるといいですね。

そして、今回の出来事で最も大切なことですが、このような心優しく、勇気のある人が本校にいたことが実感できたことが何よりも嬉しかったです。また、普段の生活を見ていると、このような人たちが他にもたくさんいることも心強いです。

これからも学校に関わる全ての人たちで、府中三中をそのような周りに対する思いやりや優しきで溢れた学校にしていきたいですね。

1年:ブラインドサッカー体験

2月1、2日「ブラインドサッカー教室」の体験学習を実施しました。現役のブラインドサッカー選手を招き、体育室にて実際に使われるアイマスクや転がすと音の出るブラインドサッカー用サッカーボールを使って、障がいのある方々の感じ方や、健常者側の配慮や協力について学びました。

実際に、体験を通じて生徒たちも「今回の学習を通して、視覚を使わないことで、普段どれだけ目に頼っているかが分かった。」「遊び方を工夫すればみんなでできることや、チームワークの大切さに気付いた。」「目を使わないで歩くのはとてもこわかったけれど、周りの人たちと助け合った、最後まで楽しくできた。」「今回のブラインドサッカーで、目が見えていなくても、目が見える日と同じようにスポーツが楽しめると思うことができました。」といったように様々なことに気づくことができました。



3年:外国の方のお話を聞く会

2月5日の5・6時間目に、エジプト・フランス・マレーシア・東トルキスタンにルーツをもつ方々を講師にお招きして、お話を聞きました。生徒たちは、事前にそれぞれの国の文化について調べた上で、各時間に1名ずつ、計二か国の方のお話を聞きました。どの方も、慣れない日本語で一生懸命に説明をしてくださり、和やかな雰囲気の中で、生徒たちの質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださいました。お話の内容は、事前に調べていたこともあれば、新たに発見することもありましたが、いずれにしても、その国で過ごされていた方の生の声にはやはり説得力があり、世界には、日本とは異なる様々な風習や価値観をもった人たちが生活しているということに、多くの生徒たちが改めて気づくことができました。



私の「心に残ったあの一言」

道徳の窓
NO65

「やり方ばかりを教えてない？」

主幹教諭 渡部 忠和

教員を目指して勉強していたころに、サッカーの指導者資格も取得しようと、講習会に参加していた。その後、教員になり、サッカー部の顧問にもなった。これまでの間に、たくさんの先生方や指導者と出会い、話をさせていただき、多くを学ぶことができた。その中でも印象的な言葉が「やり方ばかりを教えてない？」という言葉だ。ボールのけり方、止め方、動き方など、やり方ばかりを教えてもそれを試合で発揮できなければ意味がない。試合で技術を発揮するためには仲間や相手の位置やスペースの位置を「認知」し、次に起こりそうなことを予測して自分がどう行動するべきか「判断」し、その判断に基づいて「行動」する。この行動＝やり方ばかりを教えても、サッカーはなかなか上達しない。そのことにたどり着かせてくれた言葉が「やり方ばかりを教えてない？」である。

今をどう「認知」して、これから必要なことを「判断」し、自分からどのように「行動」するか。気が付けば、サッカーの時だけでなく、日常的に考えるようになった自分がいた。

三中生の活躍

(敬称略)



男子テニス部

「第45回フジカップジュニアテニストーナメント」

15歳以下男子ダブルス

「準優勝」 2年 碓井 順也・2年 枝 優志 ペア
「ベスト8」 2年 清水 優翔・2年 田口 隼也 ペア

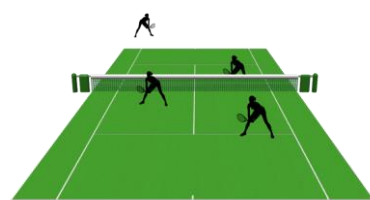
「第16回国分寺市ジュニアオープンテニス大会」

男子ダブルス

「第三位」 2年 碓井 順也
「ベスト8」 2年 枝 優志

「令和5年度練馬区中学校冬季研修大会」

Aリーグ 「第1位」 2年 枝 優志・2年 高橋 朋仁 ペア
Bリーグ 「第1位」 2年 清水 優翔・2年 田口 隼也 ペア
Cリーグ 「第1位」 1年 鳥居 怜央・1年 澤井 陽俊 ペア



陸上競技部

「第62回東京都中学校ロードレース大会」

女子1年東部1km競走

「第1位」 1年 岸 真央 3分40秒

男子2・3年東部2km競走

「第3位」 2年 村上 智洋 6分49秒

「第4位」 2年 佐伯 泰章 6分52秒

男子1年東部2km競走

「第5位」 1年 渡部 旺太 7分32秒

